

令和5年度 学校経営計画

富山県立高岡高等支援学校

1 学校教育目標

健やかな身体と豊かな人間性、社会的・職業的自立に必要な力を養い、社会に貢献できる生徒を育成する。

＜校訓＞ 挑戦 自立 共生

2 学校の特徴

- ・本校は、障害の程度が比較的軽い知的障害のある生徒を対象とした高等支援学校であり、1学年3学級24名を定員としている。
- ・卒業後の一般企業等への就職のために必要な社会的・職業的自立に向けた指導を行うために職業学科（生産・サービス科）が設置され、職業教育のための施設や設備の充実が図られている。
- ・作業学習では、実践的な働く力と社会性が身に付くように、「近隣施設等での実習」「企業からの受注作業」「外部講師による専門的な指導」等、地域や地元企業と連携して、具体的・実践的な体験を重視した教育活動を計画的に展開している。
- ・教科学習においても、生徒の社会的・職業的自立に必要な力を養うため、毎年見直しを重ねているシラバスに基づき、学習を系統的・段階的に進めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現 状

- ・本年度、14名の1年生が入学し、2年生21名、3年生24名と合わせて在籍数は59名である。軽度知的障害の他に発達障害や精神疾患などを併せ有する生徒も在籍しており、生活習慣、人間関係、コミュニケーション面などについて指導や配慮が必要な者もいる。
- ・本校の作業学習は、4種類、2グループずつ（1学年グループ、2・3学年グループ）の作業班それぞれに目標や学習内容、生徒の特性や伸ばしたい力を考慮した運営の仕方や支援の方法を担当教員で共有して指導に当たっている。しかし、担当している作業班以外の学習活動を見る機会が少なく、個々の取組や視点を全体で共有しにくい現状がある。
- ・防犯に関する教育として、教職員に危機管理マニュアルを配付し、研修は行っているが訓練は実施していない。学校内外において不審者等による生徒の安全を脅かす事件が数多く発生しているため、いざという時に教職員が的確な判断と連携した行動をとることができるか、生徒たちが落ち着いて行動することができるかは不透明な現状である。

(2) 課 題

- ・昨年度まで継続して取り組んでいる教科等の互見授業では、参観者が各授業の展開の仕方や支援の仕方について知り、改善を進める良い機会となっていることから、今年度は作業学習においてもそれぞれが所属以外の作業班の学習内容や運営、支援の仕方などを参観し、良さや改善点等の意見を交換することで横断的な授業改善と指導の充実を図る必要がある。
- ・有事の際に、教職員が生徒の安全を守るための的確な行動をとることができるよう、また、生徒が自身の身を守るために的確な判断や行動をとることができるよう、不審者侵入等を想定し、専門知識を有した関係機関と連携して体験型の実践的な訓練を行う必要がある。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	卒業後の社会的・職業的自立に向けた授業（作業学習）の充実
		計画	・作業学習の互見授業を通して、担当以外の作業学習について理解を深めるとともに、 <u>社会的・職業的自立に向けた効果的な支援、指導の視点で気付いたことを参観者がアンケートに記入する。</u> ・各作業班は、学期ごとの班会で <u>アンケートの意見を基に、学習展開や支援の仕方について検討し、授業改善に生かす。</u>
2	学校生活 重点2	目標	防犯教育の推進と充実
		計画	○地域や専門家を活用・連携する。 ・教職員が、素早く通報・対応できるように、 <u>システムの具体化・見直しを図る。</u> ・ICTによる視覚化したマニュアルを作り、 <u>明確に動ける体制を作る。</u> ・避難訓練や防犯教室を実施し、 <u>基礎知識の習得、実践力の向上を図る。</u> ○指導の事前事後にアンケートを実施し、防犯意識の変化を図る。 ・ICTを活用した教職員・生徒へのアンケートを実施し、 <u>課題を見付け、防犯についての知識や意欲の向上、定着を図る。</u>
3	進路支援	目標	進路の手引き（教員用）の活用向上
		計画	・全教職員が集まる職員会議の時間を利用して、法定雇用率、就労継続支援施設の区別等、その都度テーマを決め、進路指導に関する語句等の説明を短時間で行う。 ・説明する際には、進路の手引きを活用しながら行い、教員用手引きの見直しも同時に行う。
4	特別活動	目標	地域との関わりを意識した生徒会活動の計画と運営
		計画	・全県で取り組む「さわやか運動」の実施について、地域とのかかわりをもつ方法等について検討・協議を行う。 ・生徒会が学校行事において、地域とのかかわりがもてるような企画、運営、活動計画を工夫する。その際、生徒自身が自主的に考え、お互いに意見を発表できるように進めていく。
5 その他	教育相談 総務	目標	教育相談活動の充実と就労支援センター校としての業務推進
		計画	・中学校との連絡を密にし、生徒自身のより良い進路選択を目指す。的確な情報提供を行うため、複数での対応、施設見学や学習体験等を行い、丁寧な教育相談を重ねる。 ・就労支援のセンター校として、県西部の高等学校教員に向けて本校の教育活動を理解してもらう機会を設定する。 ・本校に関心がある生徒、保護者、教育関係者にとって、分かりやすい情報提供ができるよう内容を工夫し学校ホームページの充実を図る。
	情 報	目標	生徒の主體的な学びにつながる ICT 環境の構築
		計画	・Google Workspace for Educationを活用した学習環境を整える。 ・生徒が学習の成果を発表するために、プロジェクター等の視聴覚機器への接続を容易にする。 ・生徒が学習の成果を掲示するために、ICT機器からの印刷を容易にする。 ・教員の教材作成や活用を容易にする。 ・教員のICT活用指導力向上のため、実態に応じた研修を実施する。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 高岡高等支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	卒業後の社会的・職業的自立に向けた授業(作業学習)の充実	
現 状	<p>本校では、作業学習を学習活動の中核とし、地域・企業と連携しながら生徒の働く力を高め、就労に必要な知識・技能・態度を身に付けられるよう取り組んでいる。各作業班では、複数の担当教員が運営の仕方や支援の方法などを共有して指導に当たっているが、担当している作業班以外の活動を見る機会が少ない。また、毎年取り組んでいる互見授業は、各授業の展開を知り、授業改善を進める良い機会となっているが、作業学習で行われることが少なかった。</p> <p>今年度は作業学習においても担当以外の班の活動を見る機会を多く設けて、お互いがアンケートにて授業改善につながる意見を出し合うことで各教科同様に指導の充実が図られると考える。</p>	
達成目標	担当以外の作業班の見学及びアンケートの記入 80%	アンケートをもとにした授業改善の検討 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を記すアンケートを作成する。 ○授業見学(互見授業)の実施 ・4つの作業班を1学年、2・3学年と分け、計8展開の作業学習のうち、自分の担当以外の作業班を見学(30分程度)し、アンケートの記入をする。 ○アンケートのまとめ ・学期ごとにアンケートの意見をまとめ、各班会で授業の展開や支援について検討する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:達成しなかった)

令和5年度 高岡高等支援学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	防犯教育の推進と充実	
現 状	<p>本校では、火災や地震に関する防災教育として、年3回避難訓練を実施しているが、防犯に関しては、教職員で危機管理マニュアルを基に年1回研修を実施しているのみで、実際に防犯訓練は実施していない。</p> <p>学校内外において、不審者等による生徒の安全を脅かす事件が数多く発生しているが、本校では幸い、これまで被害や犯罪が起こることがなかった。毎年、年度当初に会議形式での防犯研修を行ってはいるものの、有事の際に教職員が生徒の安全を守るための的確な行動をとることができるかは不透明である。本校の生徒も、話を聞いただけでは具体的なイメージをもって行動に移すことは難しい。そのため、教職員と生徒が体験型の実践的訓練に取り組むことは有効であると考えられる。</p> <p>また、専門知識を有した関係機関と連携した取組を進めていくことで、防犯についての基礎知識の習得及び実践力の向上を目指したい。</p>	
達成目標	防犯教室の実施(2回以上)	防犯意識が高まった生徒・教員の割合 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートによる実態把握 ・指導の事前事後にICTを活用した教職員・生徒へのアンケートを実施 ○専門知識を有した関係機関との連携 ・教職員が、素早く通報・対応できるためのシステムの具体化・見直し ・ICTによる視覚化したマニュアル作り ・避難訓練や防犯教室の実施 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:達成しなかった)